

高城町太鼓踊り



鹿児島県内各地の太鼓踊りは、豊臣秀吉の朝鮮出兵の折、島津藩は将兵の士気を高める為、太鼓や鉦を叩いて躍らせたが、帰郷後、凱旋踊りとか出陣踊りとか、各郷が独特の踊りを創作し、郷土の民芸として後世に伝えた。

高城郷でも朝鮮出兵後、太鼓踊りがあったが、慶長11年（1606年）高城郷民が、高城の領主5代重雄（応永29年・1422年島津豊久との戦いに敗れる）の遺徳を偲び、高城郷の鎮守の杜として高城神社を創建し、舞楽を奉納した。これが「高城町太鼓踊り」の起源であり、勇壮にして優雅な序と破の独特な太鼓踊りで、他に類がない。

創設以来、第2次世界大戦前後十数年中止されていたが、昭和34年（1959年）高城町麓区民（現在の薩摩川内市高城町）が相談し合い保存会を作り、資金を集め、用具を揃え、以来今日に至る迄、毎年高城神社大祭に合わせ、踊りを奉納している。

再結成当時は、毎年9月10日の大祭に奉納し、披露されていたが、平日ということもあり、観客が少なかった。その後、昭和42年（1967年）に9月15日が敬老の日として定められ、祝日となり、この敬老の日に例大祭を行い奉納し、披露されるようになってきていた。

さらに平成16年（2004年）からは、敬老の日が9月の第3日曜日に改正された為、太鼓踊り保存会としては、再結成当時の9月10日前後の日曜日になるように、毎年9月の第2日曜日を高城神社の例大祭の日とし、それに合わせて踊りを奉納し披露することにした。

時代の流れと共に、過疎化の現象もあり、踊り子の確保に苦労していた時期もあったが、現在では、毎年中学生・高校生の協力を得ながら、伝統を絶やすことなく引き継がれている。

【奉納・披露】

日程：毎年9月第2日曜日 午前11時頃～

場所：高城神社（高城町）